評価結果報告書
「超活性固定化触媒開発に立脚した基幹化学プロセスの徹底効率化」

総合評価

ACCEL での研究開発推進は適切である。

本技術は、触媒を疎水性担体固定化しかつ両親媒性化して水中反応に適用可能にしたものであり、触媒使用量を大幅に削減（ppm～ppb レベル）しても高効率な合成が達成できる技術である。多くの有機合成反応プロセスに対する適用可能性があることから、基盤技術としてのポテンシャルは高く評価されている。

極微量の触媒使用量でも高効率の有機合成が達成可能で、最終製品への金属（触媒）漏出が極めて少ない等の本固定化触媒の特長を最大限活用するため、有機合成に関わる（すべての）事業分野について広く潜在ニーズを検討することが、本技術の社会実装を実現する上で重要である。製薬・化学メーカー等の将来ニーズに対応したさまざまな有機合成反応に応用の可能性があり、医薬、農薬、電子材料など幅広い分野で有用物質が現在よりも容易かつ小さな環境負荷で入手可能になるなど、社会への大きな波及効果が期待される。

平成 26 年 12 月 15 日
研究開発運営委員会　委員長
東京大学　理事・副学長
松本　洋一郎